

CS だより

2月号

日本キリスト教団逗子教会
牧師 小宮山剛
校長 渡辺 信

聖書のことば

『正しいことを私が言ったのなら、なぜ私を打つのか。』

ヨハネによる福音書 18章 23節

「右の頬を打たれたら、左の頬も向けなさい」とおっしゃったイエスさまですが、ここでは対応が違います。確かに、悪人に逆らわず、侮辱を耐え忍ぶ必要がある時もあるでしょう。しかし、必要な時にはしっかりと自分の尊厳を主張することも大切なのです。神さまが与えてくださった命に対して、あまりにも不正なことがある時、立ち上がるべきです。ダメなことはダメ、できないことはできないとしっかりと言う、これもまた大事なことです。私たちが必要な時に正しい行動ができますように。

(『イエスのことば100』より)

寒さのなかにも、春の訪れを感じるころになりました。皆さんが元気で過ごせますように。

~~~~~**まずは、礼拝でのお話です**~~~~~

1月28日の説教から『いつも愛し合いなさい』

ヘブライ人への手紙 13章 1-6節

世界には苦しんでいる人、困っている人がたくさんいます。2節には、**旅人をもてなすことを忘れてはいけません**と書いてあります。「旅人」と言われると、私たちは旅行する人のことをイメージするかもしれませんが、ここで言う「旅人」とは、簡単に言ってしまうと、**難民(避難民)**のことです。戦火に遭って国を離れざるを得ない人々、地震のような自然災害で家を失っている人々。また、ここに**貧困に喘いでいる人々**を含めてもよいと思います。というのは、**貧しい人**たちは、**安全な居場所を得ることができず、**どんどん世界の隅っこへと追いやられていく人々だからです。このように苦しんでいる人々は、皆安心して生きる居場所のない旅人です。イエス様はこのような人々を「もてなしてね」と言われます。

また、3節には、**自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人々を思いやりなさい**と書いてあります。今で言うと、**刑務所とか拘置所に入っている人々を思いやりなさい**ということですよ。この前、ある牧師先生の講演を聞きましたけれども、その先生は、東京拘置所で教誨師としてボランティアをしておられました。そこで受刑者や死刑囚の人と対話をするわけなんですね。あの先生は、牧師でしたから、伝道をしたわけなんですから。しかし、人によっては「えっ?!」と思う人もいるかもしれません。「そういう悪い人たちをも愛するんですか?」と、言いたくなる人もいるかもしれない。でも、



イエス様はそのような人たちにも「思いやりなさい」と言われる。どんな悪い罪を犯したとしても、見捨てられてもいい人は誰一人いないからです。それがイエス様の御心なのです。

そして、続いて、こう書いてあります。また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。日本では、最近、児童虐待が大きな社会的問題になっています。そこで、色々と調べてみました。児童相談所に、児童虐待のことで相談した件数を調べてみたんですが、1990年度（私が生まれた年）から今まで、およそ30年以上、相談件数が一度も減少したことがなかったようです。ずっと、増えていく一方ですね。特に「面前DV」というのが一番多い割合を占めていました。「面前DV」というのは、子どもの前で激しく夫婦喧嘩をすることで、子どもたちが精神的、心理的な虐待状態に曝されることを意味する言葉です。自分の目の前で愛するお母さんが、殴られたり、蹴られたりすることを見せつけられたら、それを平気で耐えられる子どもは一人もいないでしょう。このような様々な虐待と暴力が、こんなにも恵まれている環境なのに、後を絶たない。だから、イエス様は、「そういう虐げられている人々を思いやりなさい」と言われるのです。

一年前、私夫婦は里親に登録されました。「里親」って皆さん分かりますよね。ご両親がいない、あるいは一緒に住むことができない。ないそういう状況にある子どもたちのために、親の代わりに、親のように養育する奉仕です。血のつながりはないけれども、その子が成人するまで、一所懸命育てる。里親になるために、1年くらいかかりました。色んな手続きがありました。児童相談所の人に、うちに来てもらって、この家が子どもたちに安全な場所なのかどうかをチェックしてもらったり、関係者の方と何度も面談をしたりしました。また色んな書類を備えなければなりません。市役所はもちろん、（私は外国人ですから）大使館にも行きました。また、勉強もしなければなりません。里親になりたい方々と一緒に座学を受けました。そして、近くの児童養護施設にも行きました。何度も行きました。その子どもたちと楽しく遊びましたし、一緒にご飯も食べました。そして、去年の2月、すべてのプロセスを得て、正式に里親に登録されたのです。里親に登録されてから、まだ誰もうちに来ていませんが、今祈りの内に待っています。

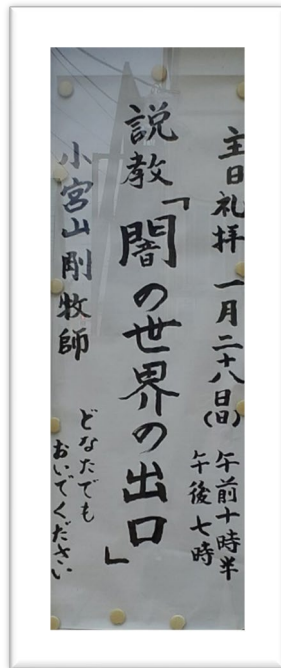
でも、正直に言いますと、同時にこのような思いもあります。「自分がちゃんと里親になれるかなあ」と。不安の気持ちも、実際あるわけなのですね。そういう思いがどこから芽生えて来るのか。考えてみたのですが、やはり、その大元を辿ると、自分の弱さや愛の無さです。愛を貫くこと、愛に生きること。とてもじゃないけれども、やはり無理です。絶対どこかで失敗するに決まっている。しかも、イエス様は「いつも愛し合いなさい」と言われる。「いつも」って、不可能だなあと思ってしまうのです。「愛に生きたい」と願う自分もいるが、同時に尻込みしたくなる弱い自分もいるのです。

でも、今日の聖書を読んでもみると、このようにも書いてあります。神ご自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない」と言われました。だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。「主はわたしの助け手。わたしは恐れぬ。人はわたしに何ができるだろう」（5-6節）。つまり、共におられる主が、わたしを助けてくださるというのです。助け主が共におられる。だからこそ、わたしたちは、愛に生きることができる。主の助けがあって初めて、「いつも愛する」という主の御心の実現されていくのです。そういう意味で「いつも愛し合いなさい」というのは、「いつも主を頼りにしなさい」ということを意味するとも言えるのでしょう。いつも主の助けを求めながら、愛に生きることができたらいいなあと思います。

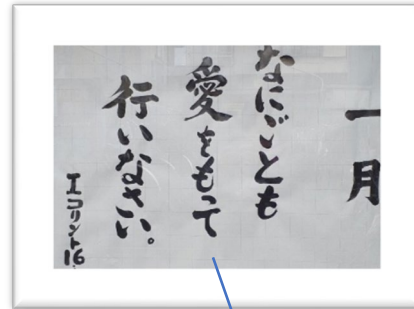
<金旻哉 神学生>

## 教会の、あれは何？

いったいどこにあるのでしょうか？



教会の正面に向かって左側にあります。その日の礼拝の説教題が書いてあります。



道路に面したガラスケースにあります。その月の聖句が書いてあります。

今はもう2月なので、変わっています。見つけて読んでみてね。  
説教題は、毎週、違う人が書いていますよ。

これからの予定をお知らせします。

- 2月14日～レント(受難節)・・・イエスさまの十字架のお苦しみを思う時です。
- 3月24日(日) 棕櫚の主日・・・イエスさまがエルサレムに入城された日です。
- 28日(木) 洗足木曜日・・・イエスさまが弟子の足を洗われた日です。
- 29日(金) 聖金曜日・・・イエスさまが十字架に架けられ、亡くなった日です。
- 3月31日(日) イースター・・・イエスさまの復活をお祝いする日です。  
\*この日をどうやってお祝いするか、今、計画中です。  
詳しくは後日、チラシでお知らせしますね。

さて、レントの期間中の3月24日(日)に、CS礼拝に続いて、進級式を行います。  
是非、一緒にお祝いしましょう



# 手話で賛美しましょう

はじめの部分は毎回繰り返します

こどもさんびか  
改訂版105番

## きょうもみんなに

1節 きょうも みんなに あえました (※ここまで繰り返し) いっしょにさんびかうたいましょう



両手を前で軽く  
押さえるように



右手を大きく平に  
まわし「みんな」



少し離して立てた両  
手人さし指を、近づ  
ける



人さし指を地面に平行  
に出し、側から中へ  
動かして前で合わせる



両手2本指で、  
口元から上の方へ、  
歌が広がっていくように

(※繰り返し) 2節

こえを そろえて うたいましょう …いっしょに み ことば



人さし指と親指の輪をの  
どに当て、輪を前に出して  
「声」右・左の順に前に



「いっしょに」の  
手話と同じ



指文字の「か」  
=神さま



右人さし指を  
口元から  
2回前へ

(※繰り返し) 3節

ききましょう ところを あわせて ききましょう …いっしょに おいのり



右手を耳にあてながら  
視線は上を見て神の  
声を「聴いている」



心臓の上を  
丸く輪を描いて  
示す



開いた両手を  
前で合わせる

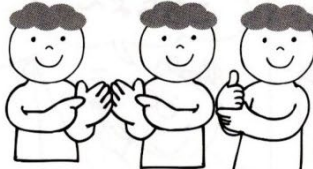


指を組んで折りの  
形(指の組み方は  
ちがってもいい)

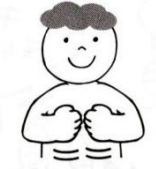
ささげましょう イエスさま いっしょに いて ください



神の方に捧げる



「主イエス」の決まりフレーズ  
中指で両手のひらをさす  
右手親指を立て左手を下に添え上に



両手をこぶしに  
ぎって2度ほど  
ドン



手を合わせる